

高岡市万葉歴史館  
の刊行物

紀要・叢書編

## ◆ 高岡市万葉歴史館紀要

### 創刊号(平成2年度)

- 渡瀬 昌忠 「人麻呂歌集研究史上の昭和三年-久松新研究・石井考への誤解を正す-」  
加藤 静雄 「歌の移動」  
阿蘇 瑞枝 「万葉後期の羈旅歌-遣新羅使人歌を中心に-」  
針原 孝之 「家持の安積皇子挽歌」  
山口 博 「越の平康里」  
小野 寛 「家持と越中と霍公鳥」  
北世 博 「富山市東岩瀬諏訪神社『伊波世野爾』歌碑をめぐって」

### 第2号(平成3年度)

- 石井 庄司 「越中万葉歌枕史攷」  
水島 義治 「防人と渡来人」  
渡瀬 昌忠 「人麻呂歌集研究史上の昭和三年(補正)-久松新研究の増補をめぐって-」  
北村 進 「『古今和歌六帖』の家持歌(上)」  
黒川 總三 「越中万葉長濱湾考」  
大久間喜一郎 「垂仁天皇記(古事記私解)」

### 第3号(平成4年度)

- 稲岡 耕二 「雲だにも情あらなも-声の文化とく自然>-」  
高野 正美 「水江浦島子を詠む歌」  
北村 進 「『古今和歌六帖』の家持歌(下)」  
奥田 和孝 「国衙財政と力役-日本古代の力役とその労働財源について-」  
小沢昭巳・佐々木敏雄 【翻刻・解題】「五十嵐篤好『聖歌考』」

### 第4号(平成5年度)

- 守屋 俊彦 「泊瀬小国の考」  
清原 和義 「家持の布勢水海-あぢ鴨の群れと藤波の花-」  
新谷 秀夫 「『冬木成(冬隠)春』と『うちなびく春』-所謂<春>を導く枕詞小考-」  
宝賀 寿男 「防人歌作者の系譜」  
森尻 麒一郎 「風土記逸文一覧表」  
小沢昭巳・佐々木敏雄 【翻刻・解題】「五十嵐篤好『聖歌考』(二)」

### 第5号(平成6年度)

- 岩下 武彦 「雄略伝承歌覚書-『我許背齒告目』の訓釈をめぐって-」  
新谷 秀夫 「家持秀歌の変貌-『百人一首』の家持歌ノート-」  
北世 博 「柿本人麻呂と郷土(富山)」  
本郷 二郎 「せみの声-家持歌ノート-」  
小沢昭巳・佐々木敏雄 【翻刻・解題】「五十嵐篤好『聖歌考』(三)」

### 第6号(平成7年度)

- 近藤 信義 「<音>喩の諸相-序詞の場合-」  
関 和彦 「古代葛飾・原風景-葛飾『真間』と手児名-」  
市瀬 雅之 「天平感宝元年四月一日の聖武天皇-『賀陸奥国出金詔書歌』の成立背景として-」  
斉藤 充博 「二つの二上山」  
中葉 博文 「越中・能登の万葉地名考(一)-地名『なご』の起因(私)考-」  
北世 博 「高市連黒人詠『賣比能野能』(四〇一六)歌碑周辺」  
本郷 二郎 「『いぶせし』の行方-家持歌ノート-」

小沢昭巳・佐々木敏雄 【翻刻・解題】「五十嵐篤好『聖歌考』(四)」  
新谷 秀夫 「家持秀歌の流転-卷十九卷頭歌のばあい-」  
松尾 光 「元正女帝の即位をめぐる」  
大久間喜一郎 「応神天皇記の解釈とその伝承」

第7号 **完 売**

第8号(平成9年度)

西宮 一民 「『味白禱の言八十禍津日前』考」  
中村 啓信 「物部氏管掌の伝承と『古事記』」  
鈴木 日出男 「後期万葉恋歌の発想と表現」  
居駒 永幸 「瀬に立つ少女-家持巡行歌群と神仙境-」  
中葉 博文 「越中・能登の万葉地名考(三)-饒石川由来(私)考-」  
北世 博 「内山邸『柿本人麿神社』考-柿本人麻呂と郷土・その2」  
新谷 秀夫 「家持秀歌の享受-『萬葉集』伝来をめぐる臆見-」  
川崎 晃 「『殿』と『殿門』について」

第9号(平成10年度)

和田 萃 「蜂と古代史-行基による布教の一側面-」  
辰巳 正明 「東歌-東国の恋歌と歌路-」  
蔵中 しのぶ 「よみがえる歌仙たち-『三十六歌仙』の継承と創造-」  
中葉 博文 「越中・能登の万葉地名考(四)-之乎路地名由来(私)考-」  
北世 博 「大伴家持詠『夜伎多知乎』(四〇八五番歌)周辺考」  
新谷 秀夫 「礼部納言本と大中臣家-『萬葉集』伝来をめぐる臆見-」  
川崎 晃 「『傳厨』考」

第10号(平成11年度)

平舘 英子 「『風吹けば 白波さわき』考」  
舘野 和己 「大伴氏と朱雀門」  
廣岡 義隆 「国府宴席歌考-近江万葉の世界-」  
田中 大士 「春日本万葉集の資料分析-視覚的提示の試み-」  
新谷 秀夫 「『次点』の実体-『萬葉集』伝来をめぐる臆見-」  
川崎 晃 「古代史雑考二題-山海経と越中・能登木簡-」

第11号(平成12年度)

大久間喜一郎 「『万葉歴史館紀要』の十周年を思う」  
佐藤 孝志 「有間皇子の万葉歌私見」  
篠島 満 「万葉の森、逍遙」  
廣瀬 誠 「澁谿埼懐古」  
高岡市万葉歴史館10年のあゆみ  
川崎 晃 「『越』木簡覚書-飛鳥池遺跡出土木簡と東木津遺跡出土木簡-」  
関 隆司 「藤原宇合私考(一)」  
川崎 重朗 「『かなし』から見た家持の歌境」  
佐々木 敏雄 「万葉集卷十八の卷末歌をめぐる」  
田中 夏陽子 「卷十九卷頭歌群にみる大伴家持の構成意識」  
-越中秀吟歌群と上巳の宴歌三首の連作意識-」  
新谷 秀夫 「平安時代における旋頭歌の意味-『萬葉集』伝来をめぐる臆見・余滴-」  
米田 憲三 【翻刻・解題】「宮永正運歌集『山路の花』(一)」  
高岡市万葉歴史館紀要(創刊号～第十号)総目次

第12号(平成13年度)

- 林 勉 「萬葉集古写本に見られるヲコト点-巻第一-」  
青木 周平 「『日本書紀』の訓注とく訓読>-巻第二の場合-」  
田中 大士 「墨跡研究会編『春日懷紙』追補の記(上)-判読困難な春日本万葉集の画像解析-」  
大森 亮尚 「地霊としての三輪山」  
黒崎 直 「万葉の都・藤原京を掘る」  
川崎 晃 「気多大神宮寺木簡と難波津歌木簡について-高岡市東木津遺跡出土木簡補論-」  
新谷 秀夫 「鮪《突く》家持-越中萬葉歌の表現・小考-」  
米田 憲三 【翻刻・解題】「宮永正運歌集『山路の花』(二)」

第13号(平成14年度)

- 西條 勉 「和歌起源論の可能性-諸説の検討を通して-」  
影山 尚之 「天平勝宝三年正月三日宴の古歌誦詠」  
田中 大士 「墨跡研究会編『春日懷紙』追補の記(下)-判読困難な春日本万葉集の画像解析-」  
中尾 芳治 「発掘された難波宮」  
川崎 晃 「古代地名と万葉集-播磨のアカシと越中大野路-」  
新谷 秀夫 「妻呼ぶ鹿の《音之亮左》-「音」をめぐる表現・小考-」  
米田 憲三 【翻刻・解題】「宮永正運歌集『山路の花』(三)」

第14号(平成15年度)

- 乾 善彦 「『万葉集』巻十八補修説の行方」  
飯泉 健司 「風土記の第三者記述」  
関 隆司 【研究ノート】「藤原宇合私考(二)」  
新谷 秀夫 【研究ノート】「『石瀬野』比定地小考」  
川崎 晃 「行基伝に関する基礎的考察  
-『扶桑略記抄』、『行基年譜』、『行基菩薩伝』をめぐる-」

第15号(平成16年度)

- 村田 右富実 「城上宮と明日香皇女」  
八木 京子 「上代文字資料における音訓仮名の交用表記  
-難波津の歌などの木簡資料を中心に-」  
田中 大士 「万葉集片仮名訓本と仙覚が見た諸本」  
古谷 稔 「男手と女手の競演-『万葉集』の古筆のみかた-」  
前 登志夫 「天二上と空の渚」  
田中 夏陽子 「巻八にみられる雪歌について-一六四〇・一六四一番歌の梅花の表現-」  
関 隆司 【研究ノート】「天平二年の『羈旅』」  
新谷 秀夫 【研究ノート】「門部王の『恋の歌』をよむ」  
川崎 晃 「講師僧恵行について(補論)」  
川崎 晃 「《覚書》高岡市東木津遺跡出土『助郡』墨書土器について」

第16号(平成17年度)

- 小野 寛 「高岡市万葉歴史館開館十五周年にあたって」  
遠藤 宏 「万葉集巻十三雑歌部の反歌について」  
山口 佳紀 「『万葉集』における短歌の訓法と字余り-短歌第一・三・五句の場合-」  
百橋 明穂 「万葉時代の美しき色」  
田中 夏陽子 「川島皇子(山上憶良)の三四番歌について  
-巻一持統紀伊国行幸歌と巻二有間皇子挽歌群の関連性-」  
関 隆司 「『くさまくら』考」  
新谷 秀夫 「『新点』とされた歌-『万葉集』伝来をめぐる臆見・補説-」  
川崎 晃 「僧伝覚書二題-玄昉の学問と鑑真の聖武授戒をめぐる-」

第17号(平成18年度)

- 直木 孝次郎 「河内政権の成立と応神天皇」  
廣川 晶輝 「山上憶良の漢文・漢詩・歌『日本挽歌』の論  
-『亡妻挽歌』の<系譜>上の作品として-」  
多田 一臣 「家持の海」  
田中 夏陽子 「武蔵国防人の足柄坂袖振りの歌-夫婦の問答歌にみる女歌の表現-」  
関 隆司 【研究ノート】「藤原宇合私考(三)」  
新谷 秀夫 「うたわれる<<娘子>>-<<娘子>>の変容-」  
川崎 晃 「古代の表記に関する覚書二題-『獲加多支鹵』、『俣田』-」

第18号(平成19年度)

- 瀬間 正之 「清明心の成立とスメラミコト-鏡と鏡銘を中心に-」  
西澤 一光 「歴史的制作物として『文字』をめぐって」  
稲岡 耕二 「犬養孝先生と『生きている万葉の風土』」  
新谷 秀夫 「家持の『天離る鄙』-越中萬葉歌の表現・少考-」  
川崎 晃 「『荊波の里』についての覚書  
-地図に描かれた道と表示記載の書字方向について-」

第19号(平成20年度)

- 曾倉 岑 「笠金村『得娘子作歌』の作意」  
寺窪 健志 「家持の『恨歌二首』-越中の風土と霍公鳥-」  
新谷 秀夫 「家持歌の『河』と『川』-越中萬葉歌の表現・少考-」  
関 隆司 「ウタゲとトヨノアカリ」  
川崎 晃 「天平十八年の遣唐使派遣計画と黄金伝説」

第20号(平成21年度)

- 村瀬 憲夫 「万葉集巻六編纂に関わる山部赤人歌の問題」  
多田 一臣 「越中国守大伴家持」  
田中 夏陽子 「万葉集におけるよろこびの恋歌-志貴皇子五一三番歌の表現をめぐって-」  
関 隆司 「万葉集に見えるホクについて」  
垣見 修司 「反歌附加の試み-巻十三異伝歌群の背景-」  
新谷 秀夫 「越路には折りし梅こそ花咲きにけれ-『萬葉集』伝来をめぐる臆見・余滴-」

第21号(平成22年度)

- 塩沢 一平 「田辺福麻呂の越中来訪と福麻呂歌集の追補  
-家持歌と万葉集編纂にもたらした意味-」  
西澤 一光 「『万葉集』における「無常」の形-思想史における「無常」の起源をめぐって-」  
開館二十周年記念シンポジウム 「越中万葉の魅力」  
小野寛、稲岡耕二、坂本信幸、針原孝之、山口博  
小野 寛 「大伴家持の「初月歌」のよみの現在」  
新谷 秀夫 「万葉には新羅をば「しら」と書けり-『無名抄』に語られる『萬葉集』(二)-」  
垣見 修司 「戯書的表記と字書の訓詁」  
関 隆司 【研究ノート】「淡海県」の訓みをめぐって」  
田中 夏陽子 「勝興寺蔵・田中大秀「遊覧越中旧国府大伴家持卿古蹟述懐辞」(上)  
-影印・翻刻・解題-」  
田中 夏陽子 【報告】富山県博物館協会研究補助 「越中万葉歌の継承とその展開について」

第22号(平成 23 年度)

- 白井 伊津子 「古代和歌における懸詞の方法」  
西澤 一光 「家持作品と日記的編纂の問題」  
新谷 秀夫 「たまくしげ二上山」の誕生  
垣見 修司 「そがひ追考」  
関 隆司 【研究ノート】「大伴家持越中守時代の中央議政官」  
田中 夏陽子 「勝興寺蔵・田中大秀「遊覧越中旧国府大伴家持卿古蹟述懐辞」(下)」  
— 訓読・語釈(校異)・現代語訳 —

■ 定価(税込) 1,000円

第23号(平成 24 年度)

- 堀沢 祐一 「古代越中国の人面墨書土器について」  
西澤 一光 「『万葉集』にとって「歴史」とは何か」  
新谷 秀夫 「大和の「たまくしげ二上山」存疑」  
— 卷七・一〇九八番歌訓詁私案 —  
垣見 修二 「万葉集卷七訓詁存疑」  
— 面就・色服染・耳言為 —  
田中 夏陽子 高岡市中央図書館寄宅五十嵐家文書  
「五十嵐和絃「万葉集草木図譜(下)」について(解題・影印)」  
関 隆司 「【研究ノート】大伴家持越中守時代の大伴氏」

■ 定価(税込) 1,000円

第24号(平成 25 年度)

- 坂本 信幸 「万葉集の「楽し」」  
井ノ口 史 「大伴坂上郎女の「従京師来贈歌」」  
— 卷十九、四二二〇・一歌 —  
新谷 秀夫 「歌枕「有磯海」の成立」  
— 『萬葉集』享受と歌枕生成 —  
田中 夏陽子 高岡市中央図書館寄宅五十嵐家文書  
「五十嵐和絃「万葉集草木図譜(下)」について2(影印画像続き)」  
関 隆司 「越中万葉故地図覚書」

■ 定価(税込) 1,000円

◆高岡市万葉歴史館叢書

創刊号『萬葉への誘い』(平成2年度)

- 北村 進 「万葉集の多様な文字表記」  
遠藤 宏 「家持の相聞歌-坂上大嬢との贈答を中心にして-」  
扇畑 忠雄 「陸奥出金と家持」  
犬養 孝 「万葉の心-越中の家持-

第2号『萬葉の魅力』(平成3年度)

- 万葉シンポジウム「万葉集にみる言葉の魅力」  
大久間喜一郎、阿蘇瑞枝、稲岡耕二、岡野弘彦、辺見じゅん他  
加藤 清 「万葉集の春苑梅歌」  
中川 幸廣 「万葉集の女歌」  
曾倉 岑 「額田王の位置」

第3号『萬葉の世界』(平成4年度)

- 三浦 佑之 「大津皇子の物語」  
原田 貞義 「旅人と憶良-その歌風の特色と形成の背景-」  
水島 義治 「防人歌の性格」  
北世 博 「官人家持考-越中万葉歌を中心に-

第4号『上代の物語』(平成5年度)

- 大久間喜一郎 「抒情歌を中心とした物語」  
山崎 正之 「常世伝承の展開-神仙思想との関わりにおいて-」  
戸谷 高明 「『古事記』の物語と歌謡」

第5号『入門 萬葉の世界』(平成6年度)

- 加藤 清 「万葉集概説」  
南 広志 「秀歌鑑賞」

第6号『越中三賦を考える』(平成7年度)

- 波戸岡 旭 「『越中三賦』の時空-大伴家持と中国文学-」  
針原 孝之 「家持の越中三賦」  
佐佐木 幸綱 「北越三賦を読む」

第7号『萬葉集と近代歌人たち』(平成8年度)

- 今西 幹一 「万葉調・万葉語による創成-正岡子規の短歌の場合-」  
島津 忠夫 「近代短歌の展開と万葉」  
岡野 弘彦 「万葉集と現代」

第8号『萬葉の原点』(平成8年度)

- 直木 孝次郎 「ヒナとミヤコ-旅人と家持の場合-」  
木下 正俊 「廣瀬本萬葉集について」

第9号『萬葉びとと旅』(平成9年度)

- 清原 和義 「旅と舟と」  
木下 良 「古代の交通制度と万葉びとの旅」  
青木 生子 「君が行く道の長手-配流の文学-

第10号『萬葉の三大歌人』(平成10年度)

- 阿蘇 瑞枝 「人麻呂恋歌の世界」  
坂本 信幸 「山部赤人の富士の山を望む歌をめぐって」  
鈴木 日出男 「大伴家持の恋歌」

第11号『大伴家持と女性たち』(平成10年度)

1、大伴家持と女性たち

- 岡野 弘彦 「家持の歌魂をはぐくんだ女性たち」  
山口 博 「越中の女性」  
阿蘇 瑞枝 「大伴坂上郎女と家持」  
小野 寛 「坂上大嬢と一人の妾と」  
針原 孝之 「家持をめぐる女性-笠女郎・山口女王・紀女郎-」

2、万葉集の周辺

- 田辺 征夫 「万葉貴族の邸宅と園池」  
東野 治之 「中皇命と中大兄」

第12・13・14・15・16・17号 完 売

第18号『額田王』(平成17年度) ※残り僅か

1、額田王 I

- 梶川 信行 「《初期万葉》の世界-その歴史認識を考える-」  
小川 靖彦 「『歴史』の証言者・額田王-その出自と経歴-」  
鈴木 靖民 「百濟救援の役-七世紀後半の日本と東アジア-」  
坂本 信幸 「紫のにはほへる妹-蒲生野の贈答をめぐって-」  
神野志 隆光 「天智天皇挽歌における額田王歌」

2、額田王 II

- 林 博通 「大津京と蒲生野遷都計画」  
廣岡 義隆 「額田王の歌の伝来について」

第19号『柿本人麻呂』(平成18年度)

1、柿本人麻呂 I

- 寺崎 保広 「柿本人麻呂の時代」  
稲岡 耕二 「人麻呂歌集の表現と中国詩学」  
村田 右富実 「人麻呂の挽歌-表現史の中の人麻呂-」  
神野志 隆光 「石見相聞歌をめぐって」  
遠藤 宏 「人麻呂の雑歌-その反歌の在り方について-」

2、柿本人麻呂 II

- 岩下 武彦 「人麻呂歌集古体歌の位相-枕詞の用法と表記について-」  
阿蘇 瑞枝 「柿本人麻呂の歌の影響と後世の人麻呂崇拜」

第20号『奈良時代の歌びと』(平成19年度)

1、奈良時代の歌びと I

- 渡辺 晃宏 「木簡から万葉の世紀を読む」  
井村 哲夫 「虫麻呂の魅力」  
東 茂美 「山上憶良は越中に来たのだろうか-四〇六五番歌の素性-」  
坂本 信幸 「山部赤人の表現をめぐって-巻三、三五七～三六二番を中心に-」  
針原 孝之 「大伴家持と越中巡行-光 と 影-」

2、奈良時代の歌びと II

- 遠藤 宏 「大伴坂上郎女-越中への思い-」  
平山 城児 「大伴旅人の足跡をたどる」

第21号『万葉の女性歌人』(平成20年度)

1、万葉の女性歌人Ⅰ

- 身崎 壽 「額田王は〈女性歌人〉か」  
鈴木 日出夫 「大伴坂上郎女-女歌の本質-」  
阿蘇 瑞枝 「蘇我氏の末裔 石川郎女-女の生き方-」  
神野志 隆光 「人麻呂歌集の女歌-人麻呂歌集と『万葉集』-」  
岡野 弘彦 「女帝・大後の歌に表れた呪性」

2、万葉の女性歌人Ⅱ

- 義江 明子 「元明天皇と奈良初期の皇位継承」  
加藤 静雄 「東国の女性の歌」

第22号『歴史のなかの万葉集』(平成21年度)

1、歴史のなかの万葉集Ⅰ

- 栄原 永遠男 「歌木簡と万葉集」  
山崎 福之 「原文に到る道」  
秋山 虔 「源氏物語は万葉集をどう受けたか」  
久保田 淳 「中世和歌と万葉集」  
遠藤 宏 「近世の万葉集研究」

2、歴史のなかの万葉集Ⅱ

- 鈴木 淳 「ますらをぶりの行方」  
品田 悦一 「語られなかった日本精神-『万葉秀歌』第百刷に寄せて-

第23号『大伴家持研究の最前線』(平成22年度)

1、大伴家持研究の最前線Ⅰ

- 木本 好信 「大伴家持と藤原種継の暗殺事件-その真相と五百枝王の伊予配流-」  
内田 賢徳 「大伴家持の発想と方法-中国文学の摂取をめぐる-」  
山崎 健司 「歌群から歌巻へ-大伴家持の編纂手法-」  
鉄野 昌弘 「歌人家持と官人家持-鶉飼・鷹狩の歌をめぐる-」  
神野志 隆光 「『万葉集』の中に編集された家持-「歌日記」の意味」

2、大伴家持研究の最前線Ⅱ

- 廣川 晶輝 「家持作品の時間と空間」  
大濱 眞幸 「「三年春正月一日」の賀歌から「萬葉」の賀歌へ」

第24号『万葉集と環日本海』(平成23年度)

1、万葉集と環日本海Ⅰ

- 藤本 幸夫 「古代日本語と朝鮮語」  
辰巳 正明 「環日本海交流と古代漢詩の成立-近江朝の漢詩文化と古代日本漢文学史-」  
藤田 富士夫 「日本海文化の中の古代越中」  
梶川 信行 「万葉集と朝鮮半島-百済系渡来人たちの役割-」  
平舘 英子 「遣新羅使人たちの航路の歌」

2、万葉集と環日本海Ⅱ

- 上野 誠 「天平五年遣唐使・平群広成の旅」  
川崎 晃 「古代日本と蝦夷・渤海-日本の華夷思想-

第25号『聖武天皇の時代』(平成24年度)

1、聖武天皇の時代Ⅰ

- 松尾 光 「天平という時代」  
田阪 仁 「聖武天皇の伊勢行幸と関宮について」  
中西 進 「無辺際 of 夢」 — 聖武天皇の生涯 —  
杉本 一樹 「正倉院宝物にみる聖武天皇の時代」

針原 孝之 「聖武天皇と家持」

## 2、聖武天皇の時代Ⅱ

影山 尚之 「聖武天皇と萬葉の和歌」

毛利 正守 「聖武天皇の時代にみる文章の特色」 — 文体の面から —

### 第26号『歌の道』 — 家持へ、家持から —

久泉 迪雄 「近・現代歌人たちの詠む越中万葉のうた」

小川 靖彦 「かささぎの渡せる橋」 — 「歌仙・中納言家持」の誕生 —

鉄野 昌弘 「家持の歌のかたち」 — 越中時代へ、越中時代から —

神野志 隆光 「吉野行幸の「儲作歌」をめぐって」

市瀬 雅之 「表現された「歌の道」」 — 大伴旅人・坂上郎女と家持 —

高松 寿夫 「山部赤人・山上憶良と大伴家持」

■ 定価(税込)第1・4号700円、第2・3・5～10号1000円、第11～26号1200円